

# G—3 衣生活の実態と高校における衣生活教育の研究(その1)

## —高校生家庭の衣生活管理—

東京学芸大 ○大森 和子  
大妻女大家政 加藤 敏子  
文部省職業教育 金原ちゑ子  
横浜国大教育 藤枝 恵子

1. 衣生活の近代化傾向の一つとして、着すて使いすての傾向がある。衣生活教育においては、衣生活の多様化傾向やこのような傾向に対処し、自主的な判断力を身につけさせる管理面の指導が重視されなければならないと考える。衣類をどのような状態で使用不能としているか、また洗たく方法(クリーニング店の利用度)や不用品の処理方法等を調査し、衣類管理の実態を知り、衣生活教育を考える資料とする。

2. 青森、栃木、東京、千葉、愛知の高校6校(全体として普通科、家政科、農業科、商業科を含む)を抽出し、女生徒の家庭における衣生活調査を行なった。調査対象1220名回収率83%。衣類を使用不能とみなす条件については、主婦と高校生とに分け、他の項目は農家と非農家に分けて調査結果を集計した。

3. ワイシャツ(もめん)などのクリーニング利用度には農家と非農家で有意差がみられるが、他には両群の差異はあまりなかった。不用品の処理方法として、交換会に出す、社会施設に送るなどはいずれの群も殆んど行われていない。衣類をどのような状態で使用不能とみなすかを、主婦と高校生に分けて比較するとかなり差があり、たとえばスリッパについて、破れている…主婦30.2%、高校生16%、白いものは黄ばんで…主婦31.5%、高校生55.2%となっている。